

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-169	14-028	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)		
Alcohol and mortality in Russia: prospective observational study of 151,000 adults. ロシアにおけるアルコールと死亡率：成人 151,000 名の前向き観察研究		
執筆者		
Zaridze D, Lewington S, Boroda A, Scélo G, Karpov R, Lazarev A, Konobeevskaya I, Igitov V, Terechova T, Boffetta P, Sherliker P, Kong X, Whitlock G, Boreham J, Brennan P, Peto R.		
掲載誌		
Lancet. 2014 Apr 26;383(9927):1465-73. doi: 10.1016/S0140-6736(13)62247-3.		
キーワード		PMID
ロシア人、若年死亡、ウォッカ摂取		24486187
要 旨		
<p>目的： ロシア人は若年死亡の割合が非常に多い。死亡した約 50,000 名の家族に対する後ろ向き調査では、外因死(事故、自殺、暴力)及び上気道消化器癌、肝臓疾患、心筋梗塞など 8 つの疾患により死亡した者において過度のウォッカ摂取があることが分かった。本研究では、前向き調査によりこれらの関係を検討した。</p> <p>方法： 3 つのロシアの都市で、1999-2008 年に 200,000 名に対しインタビューを行い(12,000 名には再調査を後年実施)、死因別死亡について 2010 年まで追跡した。既往歴のない追跡が可能であった 35-74 歳の 151,000 名において、ウォッカ摂取量と死亡率の関連を相対リスクとして算出した。解析にはポアソン回帰(リスク時の年齢、喫煙量、教育、都市で調整)を用いた。20 年の絶対リスクを得るため、これらの相対リスクと年齢別死亡率を組み合わせることで検討した。</p> <p>結果： 既往歴のない 57,361 名の喫煙者において、35-54 歳の 20 年間での推定死亡リスクは、ベースラインでウォッカ 1 ボトル/週未満で 16%(95%CI: 15-17)、1-2.9 ボトル/週で 20%(18-22)、3 ボトル/週以上で 35%(31-39)であった。55-74 歳での死亡リスクは 1 ボトル/週未満で 50%(95%CI: 48-52)、1-2.9 ボトル/週で 54%(51-57)、3 ボトル/週以上で 64%(59-69)であった。死因別に検討すると、どちらの年齢範囲でも、多量飲酒者の過剰死亡はさかのぼり調査によって関連が報告されている 8 つの内因死及び外因死によるものであった。週 3 ボトル以上の多量飲酒者の自己申告による飲酒量は 1-2 年後の調査では変動し、半数が週 1 ボトル以下と答えた。これらの変動を考慮すると、多量飲酒との関連は減弱したが、ベースラインのウォッカ摂取量は以前強い予測因子であった。</p> <p>結論： この大規模な前向き研究の結果は、ウォッカ摂取がロシア人成人の早期死亡高リスクの主な原因であるというこれまでのエビデンスを強く支持する結果であった。</p>		